

【ESD学習支援活動】

奈良市立済美南小学校「第5回済南親子燈花会」支援報告書

英語教育専修 学部1回生 下原舞、櫛乃里花

1. 実施日 平成29年8月2日（水）
2. 場所 奈良市立済美南小学校（奈良市南京終町676）
3. 参加者 英語教育専修 学部4回生 谷垣徹
英語教育専修 学部1回生 下原舞、櫛乃里花
奈良市立済美南小学校 児童・教員
4. 活動支援内容

平成29年8月2日（水）、奈良市立済美南小学校で「第5回済南親子燈花会」が開催され、本学ユネスコクラブ員が活動の支援に当たった。この活動には本学ユネスコクラブ員が毎年継続して支援に関わらせていただいている。具体的な支援の内容としては、子どもたちとともに燈花会のカップをグラウンドに並べ、子どもたちの活動や先生方の指揮のサポートなどを行った。

今回の親子燈花会に参加して感じたことを、以下の2点で振り返る。第1に楽しさと安全性のバランスについて、第2に学校を取り巻く人々との連携についてである。

第1の楽しさと安全性のバランスについてであるが、子どもたちはみな灯籠を並べ点火する作業を楽しんでいた。保護者や友達と共同で作業することで絆を深めていたように思う。このような非日常の体験は子どもたちにはとてもよい刺激になっただろう。しかし、点火作業が終わってから、ある子どもが紙飛行機飛ばし大会で使った紙飛行機にチャッカマンで火をつけている場面に遭遇した。急いで止めて火を消させたが、一步遅ければ火事になっていたかもしれない。何よりその子自身の命が危険にさらされる。高学年の生徒だったが、まだ子どもだけで火を扱うには未熟な年齢なのかもしれない。私たち大人からすればありえないようなことでも、前もって注意喚起する必要があるそうだと感じた。

第2の学校を取り巻く人々との連携についてであるが、今回の親子燈花会には、済美南小学校の教員、在校生はじめその家族、保護者の方々、地域の方々、OBやOG、異動した教員など非常に多くの方が参加しており、私たち奈良教育大学の学生もお手伝いとして携わせて頂いた。親子燈花会一つ取っても、色々な人が色々な形で済美南小学校の行事に関わっていることが分かる。学校が保護者や教員、地域の方々と連携して一つの行事を作り上げることで、子どもたちにとっても制作側にとっても思い出深い行事になったのだろう。小さなカップの光が、大きな「I♡済南」を作り上げたように、学校を取りまく人たち一人一人の力が、親子燈花会という忘れられない思い出を作ったのだと思われる。

以上2点が、この親子燈花会を通して私たちが感じたことである。これらの学びを、これからの大学生活や活動の中で生かしていきたい。



先生の指示を聞く子どもたちの様子



みんなで作った「I♡済南」